

蕙斎略画式モノ

略画式とは、簡単な描線で描かれたスケッチ風の表現技法であり、現代の漫画の起源とも言える。古くは鎌倉時代の代表的な絵巻物である鳥羽僧正【とばそうじょう】「鳥獣人物戯画」に、また享保年間には大坂で、大岡春ト【はく】『鳥羽絵【とばえ】三国志』、竹原春潮斎『鳥羽絵欠【あく】び留【どめ】』などのいわゆる「鳥羽絵本」の刊行が始まり、大衆に広まっていた。さらに安永九年(1780)には、その流れをくんだ耳鳥斎【じちょうさい】が『絵本水也空【みずやそら】』を刊行した。寛政七年(1795)に、鋤形蕙斎【くわがた・けいさい】によって『略画式』が描かれ、これを契機に人物・鳥獣・山水・草花・魚貝などの略画式へと分化がなされ、「略画式の蕙斎」の異名をとることになった。



『畧画式』(24(A)寛政七年(1795)[江戸]刊)の神田庵主人の序には、

隣の爺がもとに梅一本あり。是を工みて一艘の舟の形になし春ごとに花をひらかせ秘蔵せり。これ我好むところにあらず。まことに花をめでぬるには野梅こそよけれ。工まず、つくらず、天然の風味あり。此画も亦しかり。形によらず精神を写す。形をたくまず、略せるを以て略画式と題す。
(梅木が加工されているのは好きではない。絵にしても、加工せずに、存在しているまま、そのものの精神を写すように描くのがよい。描線に凝るのではなく略して描くのが略画式である。)

とあり、これは略画式の本質を尽くした表現と言えよう。

蕙斎が『略画式』を出して、二十年後の文化期には、葛飾北斎が最初の『北斎漫画』を出版しているが、斎藤月岑【げっしん】の『武江【ぶこう】年表』に補注を加えた『武江年表補正略』寛政年間記事を見ると

北斎はとにかく人の真似をなす、何でも己が始めたることなしといへり。是は「略画式」を蕙斎が著はして後「北斎漫画」をかき、又紹真【つくさね】(蕙斎)が「江戸一覧図」を工夫せしかば、「東海道一覧の図」を錦絵にしたりなどいへるなり。

とあり、北斎の画風が独自のものではなく、蕙斎の影響を受けていることを示している。また、筑前秋月藩のお抱え絵師であった斎藤秋圃【しゅうほ】も「人物略画式」などの影響を強く受けた『つはものつくし』(3.文化二年(1805)序[大坂]刊)を残しており、蕙斎は、同時代を生きた絵師に多大な影響を与えた。